

奨学会研究報告

K-2) 看護学における Terminology の明確化に関する研究 — 看護における技術の概念をと

して・その1 —

徳島大学教育学部

○野島良子

看護における技術の概念を明らかにし、用語・看護技術を定義するにあたって、その基礎作業として看護関係における技術概念の定位を試みた。

研究方法：文献総覧を行い、各看護論の基本構造と主要概念を抽出、比較検討、整理したうえで、それらの主要概念を用いて看護関係モデルを構成し、看護技術概念の位置づけを行った。総覧を行った文献は F. Nightingale, H. E. Peplau, D. E. Johnson, V. Henderson, I. J. Orland, E. Wiedenbach, J. Travelbee, M. E. Rogers, D. E. Orem, I. M. King, Sister G. Roy, M. L. Byrne and L. F. Thompson の各看護論である。文献選択の基準は省略する。

看護関係の生成に関わるモメントは人間の基本像（理想態）、現在像（現実態）、修復像（可能態）、および看護婦である。これら4モメントはそれぞれ一定の条件下において基本像と現在像、現在像と看護婦、現在像と修復像がこの順序で結ばれ、特定の関係を生成してくる。基本像と現在像間に生成する関係は、基本像が現在像になってくる過程であり、これを Nursing Needs 発生過程と呼ぶ。この過程では基本像に間接的 Nursing Needs 発生因子が作用することによって、直接的 Nursing Needs 発生因子をもった状態にある基本像が現われてくる。これが現在像、すなわち Nursing Needs (援助を必要とするニード)を有する人間として看護婦の援助活動の対象となってくる。患者、またはクライアントである。

現在像と看護婦間に関係が生成してくる過程では、援助活動が展開される土台となる人間関係が形成される。この過程を援助関係形成過程と呼ぶ。現在像と修復像間を結ぶ関係は、現在像が援助関係の上で展開される援助活動によって基本像、または基本像に近似した像に修復・復帰される過程であり、これを修復・復帰過程と呼ぶ。これら4つのモメントによって構成される3つの過程は、人間が健康上の理由によって看護婦の援助活動の対象となり、それによって本来の健康な、独立し

た姿に可能的に再復帰する過程を示すものであり、これを看護関係と呼ぶ。

看護技術は直接的看護技術と間接的看護技術に2分類される。直接的看護技術はさらに3分類される。Nursing Needs 発生過程に関与するのは看護診断技術であり、援助関係形成過程には対人関係形成技術が関与する。そして修復・復帰過程には看護ケア技術が関与する。前2者は看護ケア技術に対して前提としての機能を果し、それによって看護ケア技術はその目的を達する。間接的看護技術は管理調整を主目的とし、看護関係の外周に位置づけられる。